

報告事項エ

平成26年度第7回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成26年度第7回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成26年7月15日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

平成26年度第7回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成26年7月15日
高等学校課

- 1 日 時 平成26年6月9日（月） 午前10時～正午
- 2 場 所 白兔会館
- 3 参加者 別紙のとおり（委員：8名）
- 4 議 事 次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について

昨年度開催した6回分の学校等教育分科会の意見を整理した資料に基づき審議するとともに、特に重要な項目について論点を3点設定して、それぞれ審議した。

〔論点1〕 適正な学級規模について

〔論点2〕 生徒減少への対応について

〔論点3〕 中山間地域の小規模校の対応について

5 委員からの主な意見

（適正な学級規模について）

- 多様な人とのふれあいや活力ある教育活動を展開するためには、一定の学校規模が必要であり、他県で示されているような再編成等の基準を鳥取県でも作成して示していくことが必要である。
- 小規模校には、きめ細かな指導ができるメリットがあり、これにより本県の卓越性に繋がるような充実した教育が実現できるのであれば、他県に先駆けて、いち早くきめ細かな指導というものを打ち出してもいいと思う。
- 現在の適正規模は1学年4学級から8学級となっているが、普通科においては、授業の中で少人数指導や選択教科を行うにしても最低4学級の規模は必要であり、また、上限について、8学級でなくても6学級の規模があれば、部活動や生徒会活動を十分にやっていける。

（生徒減少への対応について）

- 今後、少子化が進行していく中で、鳥取県の教育では、生徒個々に応じた多様な学びを確保するという視点を根底に置いて考えていくことが必要である。
- 全国的に生徒数が減少する状況を見ると、学校を減らしていくよりも、学級数を減らしていくことがよいと思う。
- 従来の「教える」授業から、「自分たちが考え表現していく」授業へと転換していく状況において、生徒一人一人を生かして表現させるためには、授業を運営する上で、学級定員は40人ではなく35人程度の規模がよい。
- 専門学科高校の定員は35人程度がよい。また、学級（学科）を減らすと、地域からその学科がなくなってしまう状況となるので、専門学科においては複合的な学科を作り、その中で専攻を分けるなど、生徒減の中でも必要な学科を残しながら、規模を小さくすることも考えていく必要がある。

(中山間地域の小規模校への対応について)

- 中山間地域の小規模校では、その果たす役割や教育のビジョンを明確にする必要があり、これがなければ再編成も視野に入れていく必要がある。
- 地域を支える人材を育成し、地域の活性化の拠点となるような学校であれば、仮に1学年2学級や3学級でも十分に意味のある学校となる。
- 中山間地域の小規模な学校に進学した生徒が、都市部の高校に進学した生徒と同水準の教育を受けることができ、卒業後の進路も保障されるという仕組みが必要である。
- 学校設定科目や総合的な学習の時間を活用して地域と連携した体験活動や探究的な活動を実施することにより、他の教科においても単に知識を教えるだけではなく、地域資源をどう生かしていくのかというような発想を持って学習に取り組めると思う。
- 中山間地域の学校の特徴の一つとして、地域の方との体験的な活動を通して、生徒のコミュニケーション能力や人間関係能力が向上し、それが進路保障に繋がっていくことがある。
- 中山間地域の学校の適正規模については、当該地域の周辺の生徒数に応じて調整していくことが必要である。
- 鳥取県の人口を増やすことを考える上では、中山間地域の学校が戦略的に県外から生徒を入学させるということも考えて良いのではと思う。

(その他)

- 専門学科について、県の産業を支えていく人材を育成するために、どのような学科を維持させる必要があるのか十分に検討する必要がある。
- 自分たちで考え、自分たちで行動する力を育成することが大切である。また、考え方の違う生徒どうしが互いに連携しながら、その知識を持ち寄って課題解決に向けて取り組んでいくことにより、社会を変革する視点を持って実際に行動できる生徒を育成することが大切である。
- 高校を卒業してから社会に適応できる能力を育成することが必要であり、一方、学校もその能力の育成を実現できるような環境整備を図っていくことが必要である。

6 今後の予定

- 7月～9月 学校等教育分科会を2回開催して、答申案を審議して議決
- 9月 県教育審議会会長から県教育委員会委員長に対して答申

鳥取県教育審議会学校等教育分科会 出席者一覧

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育審議会 学校等教育分科会 委員	池 内 勝 彦	鳥取県高等学校PTA連合会長	欠席
	石 操	日吉津村長	欠席
	門 脇 由 己	米子北高等学校長	
	栢 木 隆 志	米子市立福米中学校長	
	小 枝 達 也	鳥取大学地域学部教授、附属小学校長	欠席
	高 橋 千 枝	鳥取大学地域学部地域教育学科准教授	
	長 尾 志 保	鳥取県PTA協議会ブロック理事	欠席
	松 本 清 治	県立倉吉西高等学校長	
	丸 山 智 子	県立倉吉養護学校長	
	森 田 清 子	北栄町北条こども園長	
	矢 部 敏 昭	鳥取大学副学長	
	山 口 朝 子	鳥取市教育委員	